

科目名	仏教美術					単位	2.0
担当教員	中川原 育子						
授業形態	講義	開講期間	前期	配当年次	1	授業番号	2308

●授業のテーマ
中国の仏教美術

●到達目標

制作時代、制作地が明瞭な基準作を取りあげ、中国の仏教美術の特色や思想背景、様式の時代的な変遷を学ぶことを目的とする。

●学習内容(授業概要)

外来宗教である仏教を中国の人々はどのように受容していったのであろうか？

中国に仏教がいつごろ伝わったのかははっきりわからないが、紀元後2世紀半ばごろから、鏡や墓の副葬品などに仏像の表現が見られるようになる。以降、中国の固有の神仙思想や道教、民間信仰などの在来の宗教と時には対立し、あるいは相互に影響を与え合いながら、中国の地に根をおろし、拡大発展していった。我が国の仏教も中国の影響を抜きにしては成立しえず、中国の仏教の有り様を理解することが、我が国の仏教をよりよく理解することにもつながる。

この講義では、中国の仏教美術の基準作を中心に取り上げ、作品を成立させている造形上の特色や様式的な変遷、主題内容、作品の思想的、社会的な背景について考察する。

●学習内容(授業計画)

1. イン트로ダクションー参考文献・時代区分についてー
2. 最初期の仏教美術ー墓葬美術にあらわれた仏像ー
3. 五胡十六国時代、劉宋時代（1）ー小金銅仏ー
4. 五胡十六国時代、劉宋時代（2）ー石窟美術のはじまりー
5. 北魏前期ー雲岡石窟ー
6. 北魏後期ー龍門石窟と永寧寺址出土像ー
7. 南齊・梁時代ー成都万仏寺址出土像群ー
8. 東魏・西魏時代ー山東、山西の造像と陝西周辺の造像ー
9. 北齊・北周時代ー天竜山石窟・靈泉寺大住聖石窟と陝西以西の造像ー
10. 隋時代ー廢仏からの復興と大乘仏教隆盛への道ー
11. 初唐時代ー宝慶寺将来龕像と龍門石窟奉先寺石窟・雷鼓台石窟ー
12. 盛唐時代ー天竜山石窟と敦煌莫高窟
13. 中唐・晩唐時代ー長安の造像と四川の石窟ー
14. 五代、北宋、遼・西夏～元時代ー敦煌における曹氏一族の活動、居庸関雲台浮彫ー
15. まとめ

●準備学習・事後学習の内容

学習の習熟度の確認と授業の事前準備のため、毎回課題を課す。

●成績評価方法・基準

平常点 (30%)、講義中に課した課題 (30%)、学期末試験 (40%)

●テキスト (必携)

なし。授業時に資料、およびレジュメを配布する。

●参考文献／その他

久野美樹『中国の仏教美術—後漢時代から元時代まで』東信堂、1999

『世界美術大全集 東洋編 2 秦・漢』小学館、1999

『世界美術大全集 東洋編 3 三国・南北朝』小学館、2000

『世界美術大全集 東洋編 4 隋・唐』小学館、1997

『世界美術大全集 東洋編 5 五代・宋・遼・西夏』小学館、1998

●履修上の注意

部屋を暗くして作品を映写するので、睡魔に襲われることがないように。毎回出す課題も定期試験と同じぐらい重視するので、積極的に取り組んでほしい。